

ペットボトルが及ぼす有明海への影響

熊本県立宇土高等学校

要旨

フォームで宇土高校生の一日のペットボトル使用量を調べ、身近に使用しているペットボトルなどのプラスチックが有明海で実際にどのような状況になっているのかを研究する。

1. 目的

- (i)宇土校生のペットボトル使用量を調べる。
- (ii)プラスチック(ペットボトル)がどのような影響を与えているのか調べる。

...5%
3本以上...5%

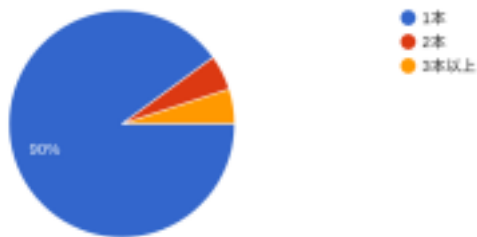
2. 方法

- (i)宇土高校生に「ペットボトル使用量」のアンケートを取り、現状のペットボトル使用量を調べる。
- (ii)住吉の海浜(有明海)に落ちているプラスチックゴミの写真を何枚か撮影し、ゴミがどこから流れてきたのか有明海の流れを元に特定する。

3. 結果

- (i)宇土高校生にペットボトル使用量を調べた結果(回答49名)

一日のペットボトル(500ml)の使用量
49件の回答



一日のペットボトルの使用量は
1本...90%



2本

- (ii)有明海のゴミの状況

この写真のように堤防にペットボトルなどのプラスチックゴミが集まっていた。



この図をもとに考えると、住吉の海浜に漂流していたプラスチックゴミは玉名市や荒尾市の方から流れてきたものだとわかる。

4. 考察

最初に、ペットボトル使用量について考察していく。宇土高校生のペットボトル使用量は1日1本が最も多く、あまり使用量が多いようには感じられない。

次に、ペットボトルなどのプラスチックゴミはどこから流れてきたのかについて考察していく。有明海において、海流は反時計回りに回っている影響が関係していることが考えられる。

5. 感想

プラスチック問題についてあまり知らなかったが今回のロジックを通して知ることができた。自分の身近な海の有明海にも関係があって、深く学んでいきたいと思った。

6. 参考文献

<https://www.npo-ariake.jp/ariakekai/knowledge/people/people06>